

# ウナギ漁獲規制提言

関係者組織  
日中韓などに

## 資源の枯渇を懸念

2013.3.21

ニホンウナギの稚魚（シラスウナギ）の減少が深刻化する中、日本や中国、韓国などの研究者や業界関係者でつくる「東アジア鰻資源協議会」（会長・塚本勝巳東京大教授）が19日、同大学で緊急シンポジウムを開催。親ウナギやシラスウナギの漁業規制の強化を求める、各国政府などに向けた緊急提言を発表した。

養殖に使われるシラスウナギの漁獲量が3年連続で極め

て低いレベルに落ち込み、資源の枯渇が懸念されるようになったことが背景。

提言は、産卵のために河川を下る「銀ウナギ」と呼ばれる親ウナギについて「捕獲規制を緊急に検討すべきだ」と指摘。シラスウナギについても、漁業管理を東アジア全域で実施することを提案した。

また、ダムやせきに魚道を設けるなどして、稚魚の遡上（そじょう）や銀ウナギの川

下りを阻まないようにすべきだとした。

銀ウナギは河川で成長し、産卵のために海に下り始めたウナギ。漁獲量は減っているが高級食材として珍重され、高価で取引されている。

シンポジウムでは、韓国や中国、台湾などでもシラスウナギ資源の減少が深刻化していることが報告され、ウナギ資源の危機が東アジアに共通のものであることが明らかにした。